

公益社団法人 千葉県建築士事務所協会  
副会長 六倉 義昭



令和2年度のスタートは、「新型コロナウイルス」の影響を受け厳しい幕開けとなりましたが、会員及び賛助会員の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。また、日頃より当協会の運営並びに事業活動に対し格段のお力添えを賜りまして心より御礼申し上げます。

昨年9月からの台風等による本県各地における被災建物も、当初の混乱が収まり本格的な復興・リフォーム等の段階に移行しております。この間、ちば安心住宅リフォーム推進協議会を通じた当会会員・賛助会員各位の被災地における面談や電話での各種相談及び現地調査への取組に対し、重ねて御礼申し上げる次第です。現在も、本年9月末日までを目途に電話相談や現地調査を継続しておりますが、応急処置から修繕工事に移行した際の見積金額・施工内容及び施工能力に関するトラブル（不信・不満）への対応が相談の中心となって来ております。皆様の更なる協力をお願い申し上げます。

さて、今年に入り、中国を発生源とされる「新型コロナウイルス」が世界中に拡散し、いまだ終息の気配も見えない状況です。「三密」状態を回避する為、当会に於いても理事会を书面決議としたり、各委員会・景観アドバイザー研修会・新規登録建築士事務所講習会そして熊本震災復興視察旅行が延期もしくは中止となり、更に、支部総会等の支部活動にも多大な影響が生じており、誠に残念な事態となっております。

これらの状況を通じ、我々が携わっている建築設計業務に思いを巡らすと、建物の置かれた環境と機能の保全に関する配慮に欠ける部分があったように思えます。計画段階においてまず考えることは、クライアントからの与条件、つまり、敷地の形状・周辺環境・用途・規模・予算・工期等、そして、法規制・建物利用者の安全性・利便性の確保及び経済性等の確認です。しかし、これらの一般的な条件のほかに、自然現象や社会環境の変化も含めた人間の活動に伴う全ての要素、非常時を含む利用者の行動（特に多数の人々が利用する施設での行動）を考慮した動線計画、快適な空間と安心・安全の確保の為に想定出来得る全ての知識を計画に反映しなければならないものと覚悟させられたことは新しい発見でした。震災・津波・台風そして感染症と想定外(?)の災害であると毎回の様に報道されていますが、福島原発事故における「津波による冷却ポンプの流失」、神奈川での「地下室に設置された変電設備の冠水」等これまでに発生しなかった事が幸運だったのであり、建築計画への重大な警告であると肝に銘ずべきと思われれます。「想定外」の一言で片付けるには技術者の一人として大いに疑問があります。

世の中、「新型コロナウイルス」への対策の為に経済活動が停滞していますが、5月14日には千葉県内の新規感染者が0人との報道がありました。気持ちに明るさが戻り、昨年度来新しく登用された若手役員が思う存分力を発揮できる環境作りの為に、皆様のご協力をお願いし、ご挨拶とします。

令和2年5月  
副会長 六倉義昭